

高岡市災害備蓄計画（概要版）

趣旨：従来の被害量を上回る地震の被害想定及び地震の被災都市の教訓を踏まえ、高岡市災害備蓄計画を改定しました。

1 基本的な考え方

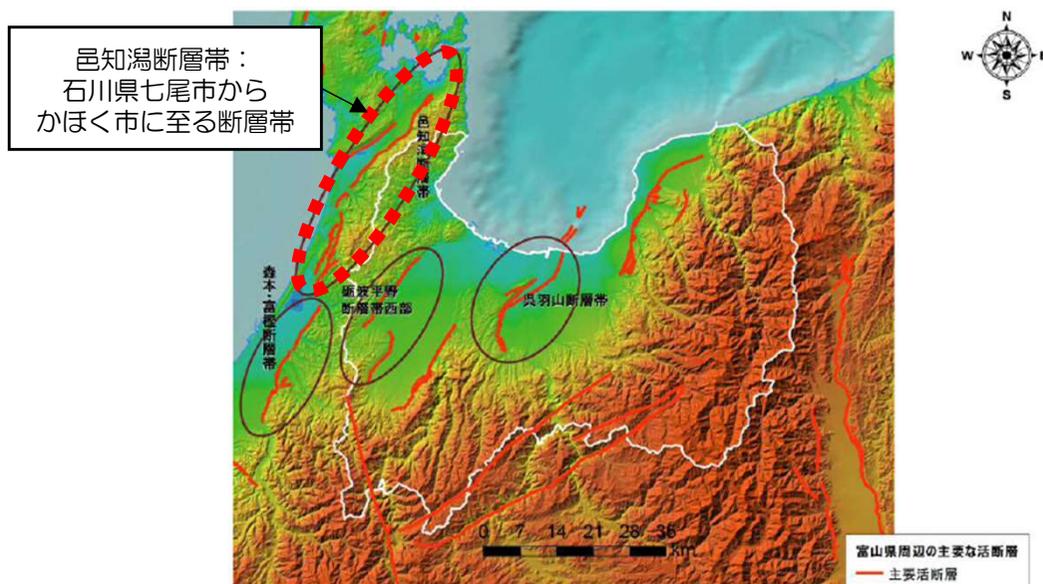
- 大規模災害の発生直後は、交通及び通信インフラの寸断等で救援物資の供給が滞り、被災地外からの支援が行き届かないことが想定される。
- 市民及び事業所が自助・共助の視点から、家庭等における非常持出品の備蓄が重要である。
- 地震による災害では、家屋の倒壊、焼失により多数の避難者及び負傷者が予想されるため、必要な物資を備えておくことが必要である。
- 内陸活断層型（直下型）地震に被災した自治体では、被災経験を活かし現物備蓄を1日分とし、災害協定による民間事業者等が持つ資源を活用することとされている。

以上より、被災により自らの備蓄品を持ち出すことができない避難者に対して、発災1日目は現物備蓄で対応、2日目以降は、流通備蓄等を活用する。

- (1) 計画の位置づけ
 - 本計画は、高岡市地域防災計画に基づき作成する計画であり、富山県の災害救助物資備蓄の考え方を基本にする。
- (2) 目標年次
 - 令和8年度（2026年度）とする。
- (3) 今後の計画の改定
 - 高岡市地域防災計画を変更した場合及び社会情勢が変化した場合等、都度検討を行い、適時適切に改定する。

2 対象とする避難者数

- (1) 被害想定及び対象とする避難者数（現物備蓄の支給対象者数）
 - 本市に最も大きな被害が想定される「邑知潟（おうちがた）断層帯の地震」を対象とする。



- 現物備蓄の支給対象者は、発災1日後の避難所避難者数から算出した24,156人とする。

- (2) 現物備蓄の分担割合（本市の考え方）

	飲料水	食料	寝具	生活必需品
富山県（現物備蓄）	0%	30%	30%	0%
高岡市（現物備蓄）	100%	70%	70%	100%

3 現物備蓄

(1) 備蓄場所

○ 飲料水、食料及び生活必需品等は、避難所開設後速やかに配布する体制とするため、小学校等の拠点避難所等（29か所）に分散備蓄する。

○ 資機材は、市内3か所の倉庫に分散備蓄する。

(2) 主な備蓄品目

○ 飲料水

・ 発災1日目に直接飲用する水として、1人あたり約1ℓを備蓄する。

○ 食料

対象	品目
3歳から74歳向け（目安）	パン、ご飯※、ビスケット
腎臓機能障がい者向け	低たんぱく米※
0歳児向け	液体ミルク、粉ミルク（アレルギー用）
0歳～2歳、75歳以上向け	おかゆ※、乳幼児用せんべい

※お湯を注入するとご飯へ復元するアルファ化米

ビスケット



哺乳瓶、液体ミルク

○ 寝具

・ 防寒対策として、毛布又はアルミ保温シートいずれか1枚

○ 生活必需品

・ 簡易トイレ、紙おむつ（乳幼児用、大人用）、生理用品及び乳幼児用おしりふき（ウエットティッシュ）など

○ 応急対策用資機材

・ 救助、救出資機材、避難誘導・搬送資機材等

○ 感染症対策物品

・ 手指消毒液、マスク及び使い捨て手袋

(3) 主な整備量（目標量）

品目	整備量	備考
飲料水	24,156ℓ	約500ml/本、10年保存
パン、ご飯、ビスケット	40,682食	パン、ご飯は、各3種類
低たんぱく米	250食	腎臓機能障がい者向け
液体ミルク	288缶	約240ml/本
アルミ保温シート	12,780枚	
簡易トイレ	114,700回	
紙おむつ（乳幼児用）	13,500枚	新生児用、S、M、Lサイズ
紙おむつ（大人用）	4,968枚	M・Lサイズ
哺乳瓶	68組	5回分/組、使い捨てタイプ
生理用品	12,040枚	10年保存
カイロ	24,170個	5年保存

4 流通備蓄

○ 複数の自治体（15団体）との災害時相互応援協定及び民間事業者（14企業・団体）との災害時応援協定を締結し、災害時に必要な物資を要請し、調達する仕組みを整えており、今後も適時適切に協定を締結し、流通備蓄の体制を強化していく。

5 整備・更新の考え方

○ 計画的に整備及び更新を進め、購入から長期間経過した物資は、サンプル調査を行い、劣化等があれば都度更新する。

○ 保存期限を有する物資は、保存期限を迎える前年度から訓練及び出前講座等において、市民の防災意識の高揚及び家庭内備蓄の促進に活用する。